

「国際青少年サイエンス交流事業 さくらサイエンスプログラム」 令和8年度 基本方針

科学技術振興機構
経営企画部さくらサイエンスプログラム推進本部

「国際青少年サイエンス交流事業」（以下、「本事業」という。）におけるさくらサイエンスプログラム（以下、「本プログラム」という。）の推進にかかる基本方針を以下のとおり定める。

1. 本事業の目的

「国際青少年サイエンス交流事業」（平成26年度発足）は、科学技術振興機構（以下、「本機構」という。）が、産学官の緊密な連携により、諸外国・地域及び我が国の青少年の招へい・派遣を通じて科学技術分野の国際交流を行う事業である。これにより、

- ① 科学技術イノベーションに貢献しうる優秀な人材の養成・確保
- ② 国際的頭脳循環の促進
- ③ 日本と諸外国・地域の教育研究機関間の継続的連携・協力・交流
- ④ 科学技術外交にも資する日本と諸外国・地域との友好関係の強化

に貢献し、ひいては、日本及び世界の科学技術・イノベーションの発展に寄与することを目的とする。

本事業では、本プログラムに加えて、令和7年度よりインドの優秀な若手研究人材の交流を促進するインド若手科学頭脳循環プログラム（LOTUS プログラム）を新たに開始した。また、本事業とは別の枠組みの下で、令和6年度から日ASEAN科学技術・イノベーション協働連携事業（NEXUS）若手人材交流プログラム（Y-tec）を開始し、ASEANの若手人材との双方向交流を進めている。

令和8年度は、従来からの本プログラムを着実に進めるとともに、令和6年度以降拡大してきたこれらの取組みを、本プログラムでの取組みとの相乗効果を図りつつ、より一層拡大・拡充することにより、上記の本事業の目的達成を図る。

2. 本プログラムが対象とする科学技術交流

科学技術（自然科学及び人文・社会科学）分野の交流全体を対象とする。

3. 本プログラムが対象とする国・地域

原則としてすべての国・地域を対象とする。ただし令和8年度は、限られた予算を戦略的に活用するため、令和7年度に続き、交流を重点的に進める国・地域を定める。

まず、IT、AI等の分野で豊富な人材を抱え、高度人材の来日促進が今後の我が国の科学技術基盤形成の鍵となることが期待されるインドを、令和7年度に続き重点交流国とする。ただし、令和7年度に開始したLOTUSプログラムにより、日印間の国際共同研究に基づく人材交流が進み始めたことから、日印大学等フォーラムでのこれまでの議論等を踏まえつつ、LOTUSプログラムとの役割分担や連携を意識して本プログラムを推進し、両プログラムが相乗効果を発揮できるように運用する。

次に、成長著しく、若い人材が豊富であり、日本にとって戦略的に重要なアフリカ諸国

を重点交流地域とする。令和7年8月開催のTICAD9での関係深化の機運の高まりを最大限に活用し、交流促進を一層加速する。

また、これまで活発な青少年交流が行われてこなかった新たな国・地域との取組みについても、引き続き拡大に努める。

一方、上記重点化を推進するため、他の交流手段も存在する北米、欧州、オセアニア各地域（一部国・地域を除く）については、当面、本プログラムの対象外とし、さらに、これまで10年以上をかけて、本プログラムを通じて草の根的に交流基盤を醸成してきた国・地域との交流についても、近年の国際情勢、経済安全保障の状況、我が国の科学技術政策等を踏まえつつ、日本の科学技術基盤形成に資する交流を厳選して実施することとする。

4. 本プログラムの取組みについて

令和7年度における取組みを踏まえて、令和8年度については以下の方針により実施する。

(1) 公募

① さくらサイエンスプログラム (A,B,C コース)

A,B,C コースについては、令和8年度は、上記「3. 本事業が対象とする国・地域」の考え方を踏まえて全体のバランスを考慮して運営する。なお、ASEAN 諸国については、日・ASEAN 諸国間の連携・協力が強化されつつある現状、双方への裨益を目指す取組み等への貢献等を意識し、実施機関訪問などを通じて得られた意見などのフィードバックを踏まえて、受入れ機関及び送出し機関双方にとっての成果の最大化を図る。

② さくらサイエンスプログラム 相補的年間交流コース (D コース)

令和6年度より開始したDコースは、重点国・地域のインド・アフリカ諸国の学生、研究者、教員及び科学技術関係者を対象にした、長期型（最大90日）・双方向型（派遣、招へい）の相互交流コースである。この取組みを通じて、日本とインド・アフリカ諸国の人・機関間の関係を強化することで、国際共同研究に向けたテーマ検討など、人材交流・頭脳循環をさらに推し進める活動の深化と交流の拡大を目指す。

令和8年度においては、令和7年度に続き重点国・地域のインド・アフリカ諸国を対象とするが、インドについてはLOTUSプログラムとの役割分担などを考慮しながら推進する。また、実施済の交流の成果などを踏まえて、Dコースの特徴である長期の双方向交流について、交流の質の向上や機関間交流の深化へと着実に繋げられるようプログラムのさらなる改善を図る。

なお、上記①②いずれにおいても、青少年の受入れ・派遣機関や当該国政府、関連機関の自主的な努力が引き出され、プログラム推進に活かされるように努める。

(2) 直接招へい

直接招へいは、当推進本部が直接、主に相手国の政府機関及び在京大使館の協力の下、特に優れた高校生を日本に招へいし、1週間程度の科学技術交流を実施することで、将来的な人材交流や科学技術外交の展開に資することを期待するものである。

令和7年度は高校生を対象としたハイスクールプログラムにおいて、国・地域バランスや我が国の国際的立ち位置を踏まえるとともに、重点国・地域であるインド・アフリカ諸国との一層の交流拡大に資するよう戦略的に実施した。

令和8年度においても、引き続き国・地域のバランスや、上記「3. 本事業が対象とする国・地域」の考え方を踏まえつつ、招へい者の満足度を高め、将来的な人材交流・頭脳循環に繋がるような効果的な取組みを進める。なお、海外機関による日本の高校生招へい等の取組みについても、推進本部として適切な支援を行うなど、他機関の推進する活動であっても、国際人材交流にとって効果的と考えられる活動には戦略的に取り組む。

(3) 二国間・多国間交流

二国間・多国間交流では、当推進本部が自ら、招へいまたはオンラインによる二国間・多国間との交流の機会を設定することで、研究機関同士の交流を促進し、その後の人材交流や国際共同研究等への発展へと繋げるなど、交流基盤形成を目指す。

令和7年度は、令和6年度に続き「日印大学等フォーラム」をインドで開催し日印での大学、研究機関間の連携促進を図るとともに、TICAD9を関係深化の契機とし日本・アフリカの機関間での協力促進を図る「日本・アフリカ大学交流会議」を開催した。

令和8年度においては、上記「3. 本事業が対象とする国・地域」の考え方を踏まえて、引き続き「日印大学等フォーラム」を開催し、日印交流基盤のより一層の発展を促す。アフリカに関しては、オンラインによる交流の機会を提供することにより、継続的なネットワークの構築・維持、拡大を図る。「アジア大学フォーラム」については、これまでの成果を踏まえて、人材交流、頭脳循環がより拡大する発展的な機会となるよう戦略的に取り組む。

(4) ネットワーク構築

本事業の目的実現には、本プログラムの参加者及び受入れ・派遣機関の関係者による継続的なネットワークの構築・維持、拡大（同窓会の開催・運営支援等）の取組みが重要であり、これを戦略的に進める。令和7年度は、日本を含む7ヶ国・地域での同窓会の開催支援及び同窓生に対する各種情報発信等のフォローアップを実施した。

令和8年度においても、引き続きメールマガジン等で日本の科学技術に関する情報や留学情報を提供するとともに、自発的・自主的に活動する同窓会の発足・運営等を支援する。また、関係機関の協力のもと、さくらサイエンスクラブ（SSC）メンバー向けの奨学金の機会に関する情報を提供する等、関係機関と適切な連携を図りながら、本プログラムの成果最大化に向けたネットワーク構築を積極的に実施する。また、LOTUSプログラムや日ASEAN科学技術・イノベーション協働連携事業（NEXUS）若手人材交流プログラム（Y-tec）との効率的・効果的な連携を通じて、同窓会の充実やネットワーク拡大を図り、更にその成果が翻って各プログラムの発展に資するような好循環を生み出すことを目指す。

5. 関連する事業/プログラムとの連携

(1) インド若手科学頭脳循環プログラム（LOTUSプログラム）

本事業のもとで令和6年度の試行を経て令和7年度より開始した、インドの優秀な大

学生・大学院生等の若手研究人材の交流を基礎とする機関間共同研究促進プログラムである。令和6年度の試行で55名、令和7年度の新規採択で300名の招へいを進めており、令和8年度は引き続き300名規模の招へいを継続する。

令和8年度より開始される先端国際共同研究推進事業（ASPIRE）招へい型は、LOTUSプログラムをさらに発展させ、インドからの大学院生等について最大3年間の招へいを可能とするもので、これにより日印共同研究のもとで優れた研究成果の創出を目指す。

さくらサイエンスプログラムにおける日印間での交流の成果をこれらのプログラムに繋げるなど、相乗効果を意識しながら事業運営を進めていく。

（2）日 ASEAN 科学技術・イノベーション協働連携事業（NEXUS）若手人材交流プログラム（Y-tec）

令和6年度より ASEAN 諸国を対象に、新たなイノベーションを共創し持続可能な研究エコシステムの構築を目指す「日 ASEAN 科学技術・イノベーション協働連携事業」

（NEXUS）が新たに開始され、当推進本部でもこの一環として、ASEAN の若手人材との双方向交流を通じて国際頭脳循環の活性化及び次世代研究者の育成を目指す「NEXUS 若手人材交流プログラム（Y-tec）を開始した。

令和8年度は令和7年度に続き、さくらサイエンスプログラムの利用機関や SSC メンバー等への周知を進めるとともに、NEXUS の国際共同研究参加者の交流の機会を設ける等により、ASEAN の若手人材プール形成を目指す。

6. 事業推進に当たっての留意事項

（1）安全・安心な交流の実施

国際交流の推進に当たっては、相互の信頼関係の構築と安全性の確保が大前提となるため、本機構をはじめ交流事業に関わる関係者は、招へい者等の健康面での安全性確保や安心できる滞在への責任を持った対応等、万全の措置を講ずる。さらに、我が国を取り巻く国際情勢の急速な変化を踏まえて、引き続き経済安全保障の観点に十分配慮した事業実施を徹底する。

（2）関係機関との連携強化

本事業の発展のためには、関係機関との強い信頼関係を基盤とした連携強化が必須であり、国内関係機関、自治体、駐日外国公館、国外関係機関、サポーター等とのネットワークを強化する。受入れ機関のニーズに適切に応えるとともに、国際情勢、科学技術に関する我が国の状況、政策及びこれまでの経緯等にも十分配慮して対応する。また、本機構各部署と一層の連携を図ることにより、実効的な交流が進むよう取り組む。

（3）その他

本事業の内容やその成果をステークホルダー等に広く周知すべく積極的な広報活動を行い、研究機関等における国際人材交流の機運を高め、新しい科学技術、イノベーション創出に貢献する。

以上